

スカビオサ・アトロプルプレア種の秋冬期出し作型の品種特性とは種時期

佐藤武義・高橋佳孝*・小野恵二

(山形県農業総合研究センター農業生産技術試験場・*山形県置賜総合支庁)

Varietal characteristics and seeding time of *Scabiosa atropurpurea* cv. for flowering from autumn to winter

Takeyoshi SATO, Yoshitaka TAKAHASHI* and Keiji ONO

(Department of Agro-production Science Yamagata General Agricultural Research Center, *Okitama Branch of Yamagata Prefectural Government Office)

1 はじめに

スカビオサ・アトロプルプレア種はヨーロッパ原産の1~2年草であり、花束などによく用いられる。本種は質的長日植物であり、自然条件下では夏季に開花する¹⁾。近年、育種改良が進みカウカンカ種²⁾とともに花色が豊富となり、秋冬期の需要の増加が見込まれる。そこで、本報では夏越しの栽培となる秋冬期(9~12月)出し作型の確立を目的に、早生種、中生種、晩生種を供試し、播種時期と生育、開花、収量および切り花品質について検討した。

2 試験方法

(1) 品種特性(2004年)

早生種‘クイズスカーレット’‘ルージュカーマイン’‘オックスフォードブルー’、中生種‘エースオブスピード’‘スノーメイデン’、晩生種‘クイズサーモンピンク’を供試し、4月28日に128穴セルトレーに播種した。定植は硬質プラスチック鉄骨ハウスに、基肥(成分kg/a)をN:P₂O₅:K₂O=1.0:1.0:1.0、栽植様式をうね幅180cm、ベッド幅80cm、株間20cm、条間40cm、2条植えとして6月8日に行い、定植後から9月14日まで黒寒冷紗#600(遮光率50%)をハウス内に天カーテン状に被覆した。保温は9月27日から開始し、10月26日から最低夜温8℃を目標に加温を行った。10月15日から22~2時を明期として白熱電球で電照した。試験規模は1区10株とし、12月16日まで調査を行った。

(2) は種時期(2005年)

早生種‘ルージュカーマイン’、中生種‘エースオブスピード’、晩生種‘クイズサーモンピンク’を供試し、6月11日、6月25日、7月9日に順次は種し、それぞれは種1カ月後の7月11日、7月25日、8月8日に定植した。定植はビニールパイプハウスに、基肥(成分kg/a)をN:P₂O₅:K₂O=1.3:2.6:2.1、栽植様式をうね幅180cm、ベッド幅90cm、株間25cm、条間40cm、2条植えとし、白黒ダブルサマーマルチを用いた。7月14

日から9月5日までは2004年試験同様に黒寒冷紗を被覆した。保温は9月23日に開始し、加温は10月10日から最低夜温10℃を目標に行った。9月13日から明期延長16時間日長として白熱電球を用いて電照した。試験規模は1区10株とし、12月27日まで調査を行った。

3 試験結果及び考察

(1) 品種特性

各品種とも開花盛期は8、9月となった(図1)。

1株あたりの累積商品収量は品種間差が認められ、最も多い‘クイズスカーレット’が48本、次いで‘ルージュカーマイン’と‘クイズサーモンピンク’が39本となり、その他の品種は20本台であった。商品花率は、最も高い‘ルージュカーマイン’と‘クイズサーモンピンク’が71%、次いで‘クイズスカーレット’が65%、‘エースオブスピード’が54%となり、その他の品種は40%以下であった(表1)。

切花長は‘ルージュカーマイン’と‘エースオブスピード’が40cmと長く、次いで‘クイズサーモンピンク’が38cm、‘オックスフォードブルー’が37cmとなり、供試品種間ではやや長かった(表1)。

(2) は種時期

定植1カ月後の茎長は、6月11日区では‘ルージュカーマイン’と‘エースオブスピード’が約40cm、‘クイズサーモンピンク’が約34cmとなったが、6月25日区および7月9日区では各品種とも4~12cm程度と短くロゼット様の生育を示した。節数は、各品種とも6月11日区では約9節、6月25日区および7月9日区では6~7節とやや少なくなった(表2)。

開花始日は、6月11日区では各品種とも9月初旬から、6月25日区では‘ルージュカーマイン’と‘エースオブスピード’が9月中下旬から、‘クイズサーモンピンク’は10月上旬からとなった。7月9日区では、‘ルージュカーマイン’が10月下旬から、‘エースオブスピード’が11月中旬から、‘クイズサーモンピンク’は12月上旬からとなった(表2)。

1株あたりの累積商品収量は、6月11日区では‘ルージュカ

ーメイン' と 'エースオブスピード' が40本以上, 'クイズサーモンピンク' が約30本と多かった。6月25日区では各品種とも約20本, 7月9日区では 'ルージュカーメイン' が約10本, 'エースオブスピード' が約30本, 'クイズサーモンピンク' は10本以下であった(図2)。商品花率は, 各品種, 各は種時期とも95%以上と高かった(表3)。

切花長は, 6月11日区では42~46 cm, 6月25日区では44~52 cm, 7月9日区では49~53 cmとなり, は種時期が遅くなるにつれてやや長くなる傾向が認められた(表3)。

4 ま と め

以上の結果から, スカビオサ・アトロプルプレア種は, 4月

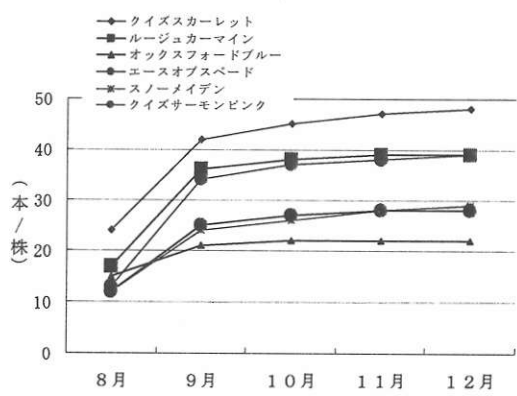


図1 品種の株あたり累積商品収量

表1 品種の商品収量と切花長

品種	商品計 (本/株)	商品花率 (%)	切花長 ^z (cm)
クイズスカーレット	48	65	36
ルージュカーメイン	39	71	40
オックスフォードブルー	22	29	37
エースオブスピード	28	54	40
スノーメイデン	29	37	35
クイズサーモンピンク	39	71	38

^z9月, 11月平均

表2 定植1カ月後の生育と開花始日

品種	は種日 (月日)	定植1カ月後の生育 茎長 (cm)	節数 (節)	開花 始日 (月日)
ルージュ	6月11日	39.9±11.3 ^z	9.0	9.01
カーメイン	6月25日	12.2± 6.7	6.5	9.20
	7月9日	8.9± 4.2	6.8	10.25
エースオブ	6月11日	40.1±13.9	8.6	9.01
スピード	6月25日	5.9± 3.3	6.7	9.23
	7月9日	6.5± 2.7	6.6	11.18
クイズ	6月11日	33.7±12.7	8.5	9.01
サーモン	6月25日	5.2± 1.8	5.9	10.08
ピンク	7月9日	4.4± 1.8	5.9	12.08

^z 平均±標準偏差

下旬のは種では8~9月が開花盛期となり, 品種の早晚性による商品収量の差は判然とせず, 秋冬期(9~12月)出し作型では, 収量および切花長の点から早生種, 中生種の適応性の高いことが示唆され, は種時期は6月中旬が適すると考えられた。

引用文献

- 1)中村広, 郡司定雄, 富永寛. 2000. 長日処理と管理温度がスカビオサ・アトロプルプレア(*Scabiosa atropurpurea* L.)の開花に及ぼす影響. 九州農業研究 62: 223
- 2)諏訪理恵子, 矢吹隆夫. 2005. スカビオサの冬春出し栽培法. 平成16年度東北農業研究成果情報[花き]

表3 は種時期別の商品収量と切花長

は種日 (月日)	商品計 (本/株)	商品花率 (%)	切花長 ^z (cm)
'ルージュカーメイン'			
6月11日	43.7	96.9	46.3
6月25日	20.7	96.3	47.0
7月9日	10.2	99.0	49.0
'エースオブスピード'			
6月11日	46.3	98.1	45.0
6月25日	22.5	97.4	51.7
7月9日	29.3	100.0	52.5
'クイズサーモンピンク'			
6月11日	29.5	97.0	42.3
6月25日	17.6	96.7	44.3
7月9日	4.4	100.0	52.0

^z9~12月平均

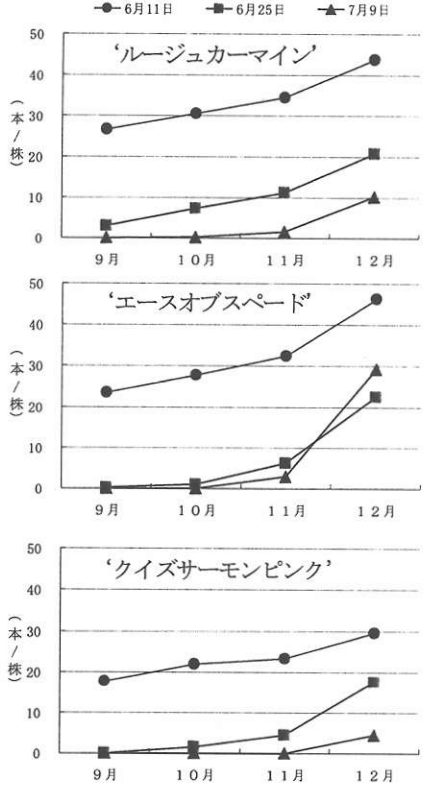


図2 は種時期別の株あたり累積商品収量